



木 木 木

千葉県 TEACCH プログラム研究会
2019年9月28日 第103号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県TEACCHプログラム研究会広報部

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内 TEL 043-227-8557

ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

令和年度 第2回 連続セミナー

「自閉症の特性に基づく視覚的支援」

フリーランス児童精神科医
門 眞一郎氏



「自閉症スペクトラムのある方は生まれつき脳機能のタイプが一般の方と違う。脳の情報処理の仕方や物事の感じ方、理解の仕方が違うということである。そのため、発達に関しては著しくメリハリ（減り張り）があり、ハリを活かし、メリはハリで補うことが得策である」と前段でお話しされた後、自閉症スペクトラムのメリハリについて、視覚的支援の必要性、コミュニケーション支援について、たくさんの写真等の視覚的支援を交えてお話しいただきました。

まず、**自閉症スペクトラム障害のある方の最も重要なメリハリ等**について、次の5点を挙げられました。

- ☐ メリ：音声言語だけでは、正確な意味や見通しの理解が困難である
- ☐ ハリ：視覚的な手がかりがあれば、意味や見通しを理解しやすい（相対的に視覚優位）
- ☐ メリよりハリに注目して支援する ☐ **必然的に視覚的支援となる**
- ☐ **あらゆる支援の基礎として、コミュニケーション支援が必要である**

理解及び表出コミュニケーション支援で大切にしたい点について、門先生は以下のようにお話しされました。

理解コミュニケーション（どう伝えるか）について

- (1) 具体的な内容を、肯定的な表現で、視覚的に伝達をすること
- (2) 構造化をすること

構造化の目的は視覚的な手がかりやルーティンを使って「意味」と「見通し」が理解できるようにすること。構造化について次の①～③のように分け説明されました。

- ① **空間の視覚的構造化**：場面の意味を視覚的に伝えることで、何をすべきか、何をしてはいけないのかわかる。することが分かれば自発的に行動できる。・・・教室内の整理、家具の配置、動線、余計な刺激のコントロール等
- ② **時間の視覚的構造化**：予定を視覚化することは見通しを明示すること。見通しが立つと、不安が軽減し「変更」「待つ」ことが可能になり、自発的な行動の選択ができる。・・・スケジュール、カレンダー、活動内スケジュール(手順書やワークシステム)等
目指すは時間の自己管理ができるようにすることである。
- ③ **視覚的フロンツトと自然な合図**

表出コミュニケーション（どう伝えてもらうか）について

- (1) 絵、写真、文字、コミュニケーション機器、スマートフォン等を活用すること
- (2) **PECS**（絵カード交換式コミュニケーションシステム）を使用すること
PECSは音声言語や自発的なコミュニケーションが難しい方に有効で年齢や障害の程度にかかわらず指導可能である。

理解及び表出コミュニケーションに係る視覚的支援を意味あるものにするためには、支援方法の目的をしっかりと理解し一人一人の障害の状態等に合せ再構造化していくこと、そして、合理的配慮である補助代替コミュニケーション手段(絵、写真等)を保障することは「障害者差別禁止法」において法的義務あるいは努力義務があり、支援者として確実にやっていかなければならないことを改めて心に刻みました。門先生ありがとうございました。

自閉症カンファレンスNIPPON2019 ポスターセッションにて 『新・ままのて手帳』を紹介しました！

市川市こども発達センター 守屋 塩子氏

8月24日（土）、25日（日）に開催された「自閉症カンファレンス NIPPON2019」のポスターセッションにおいて、『新・ままのて手帳』を紹介させていただきました。

『新・ままのて手帳』は、8年前に市川市こども発達センターと保護者との協働により作成された『ままのて手帳』を改訂したものです。

この手帳の特徴の1つは、子育て真っ最中である保護者に向けて、先輩保護者の手によって作られたものであるということです。先輩保護者とは、以前発達センターで支援を受けていたお子さんが中学生や高校生になった方たちで、「子どもが小さい頃、こんな冊子があったら良かった」という保護者の願いを形にすることを目指し、職員と一緒に試行錯誤を重ねて作成しました。

2つ目は、子どもの問題行動は子どもが困っている状態だと捉え、行動の背景にある子どもの特性について「こんな原因があるのかも」と伝えていることと、子どもの行動に対して、「うちはこうしてみたよ」と具合的な対応方法やを紹介していることです。また保護者が忙しい暮らしの中で、気軽にやってみようと思えるような工夫を紹介しています。ちなみに『新・ままのて手帳』のかわいいイラストは、絵の上手な職員が担当しており、視覚的で分かりやすいと保護者から好評を得ています。

3つ目は、子育てに見通しが持てず、不安な気持ちでいる保護者に向けて、子ども達にはこのような未来もあることを知っていただくために、「うちの子のそれから」というコーナーを設け、子どもが適切な支援を受けて育っていくことの大切さを、先輩パパやママからのメッセージとして伝えています。

最後に、私たちは千葉 TEACCH 研において、故佐々木正美先生のお話等を通し、保護者から子どものことを教えていただき、協働のセラピストとして対等の立場で支援を考えていく大切さを学んできました。多くの保護者から惜しみない協力を得て完成した『新・ままのて手帳』は、保護者との協働が子ども達への力強い支援となり、多くの方に影響を与えていくことを改めて深く学ぶ機会となりました。

皆様、『新・ままのて手帳』は市川市のホームページからダウンロードできますので、是非検索してみてください！この手帳が一人でも多くの保護者や支援者に届きますように。



令和元年度 TEACCHプログラム研究会 第4回連続セミナーのお知らせ

日時：10月26日（土） 13:30-16:30（13:00受付開始）

内容：「学識者の支援」（仮題）

講師：野畑 光代 氏（元京都府立特別支援学校教諭）

会場：千葉県教育会館203会議室（千葉市中央区中央4-13-10）

（編集後記）この度の台風15号により被災された皆様心よりお見舞い申し上げます。そして、1日も早い復旧をお祈りいたします。勤務校も断水のため数日間休校でした。あたりまえにあるライフラインに改めて感謝する毎日です。（金坂）